

高島藤樹会

発行

NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1

電話・FAX 0740(32)4156

就任のご挨拶

会長 川越 清司

このたび高島藤樹会におきましては、特定非営利活動(NPO)法人高島藤樹会として活動することになりました。その機会をもとに会長就任という大役を仰せつかりました。この会が高島市の合併にともなうて発足し上田藤市郎前会長が八年の間に大きく育てられました。このような時に、浅学非才の私が会長職とは正直大変戸惑っています。

私は青柳小学校で萬木甚一良先生に藤樹先生のことを約三年間にわたり、ワンパク坊主達に幻燈(げんとう)や読み聞かせなどを通じて藤樹先生のことをよく教えていただき卒業いたしました。今は学校ではそのような時間が充分にあるとは聞いていませんが、あの時に習ったことでよく覚えているのは、小川村の人たちが衣服を着替えて先生の墓所を案内されたという話は忘れられません。藤樹先生の遺徳が最も偲ばれるのは藤樹書院(良知館)にあると思います。それは約三百年にわたり小川村の方がお世話をし、守っておられます。そのような処に高島藤樹会の事務局を置かせていただき、先生の徳にふれさせていただけに深く感謝申し上げます。

時代も大きく変わり、変えてはならないもの迄も変わっていく大変気をもむところでございます。「藤

樹教育の師父」と言われた森信三先生がしつけの三原則で一つ、朝、必ず親に挨拶をする子にすること、二つ、親に呼ばれたら必ず、「ハイ」とハッキリ返事のできる子にすること、三つ、ハキモノを脱いだら必ずそろえ、席を立つたら必ずイスを入れる子にすること、この三つのことが大人も子供も共に実践できれば荒んだ世の中が大きく変えられる第一歩になると話されておられます。藤樹先生の教えの中に慎独という言葉がございます。このことは自分を振り返る大切なことです。たくさんの方が高島藤樹会の行事に参加していただき、自分を振り返る道具にさせていただくことを願います。

退任にあたり感謝

前会長 上田 藤市郎

二〇〇六年(平成一八年)に高島藤樹会が発足して以来、図らずも会長を務めさせていただき、今回、その任務を退かせていただきました。

ふりかえりますと、「藤樹先生生誕四〇〇年」の事業とのかかわりで、高島市、藤樹書院、中江藤樹記念館の皆様の大々なご指導をいただき、講師の先生からは、いずれも貴重なお話を伺うことができました。藤樹先生の志学の地、大洲市を高島市民

の方々を訪れ、また高島市へ来られた大洲市民の方々との交流を得ました。毎年、藤樹先生関連の紙芝居を精力的に制作された会員の方々、広報を編集された方々、学習会を継続開催しておられる方々、NPO法人への発足に並々ならぬご尽力を頂いた方々など、二四〇名余の個人会員、法人会員の皆様のご協力のお陰で事業を進めることができましたことに對して厚くお礼申し上げます。さらに藤樹先生の教えを様々な世代に広げる活動では、幼稚園、保育所、小中学校、高等学校、地域の自治会や公民館での事業など、さまざまな団体などで受け入れをいただいたことに深く感謝申し上げます。

藤樹先生は、四〇年余の生涯で、その史実だけをたどってみても、四〇〇年にわたって時代の人々の記憶に残る人生を歩まれたことがわかります。とりわけ、「馬方又左衛門」の逸話が先生の存命中に広く全国の人々に知られたことから、先生の生き方が鮮明に伝わってきます。戦前、戦後を通じて、時代の風潮に左右されずに、藤樹先生への思慕と敬意を維持してこられた小川村の人々と関係者の皆様に圧倒されます。

時代の変遷にかかわらず、「まっすぐ生きること、粘り強く正義を実現すること」の重要性は、近年ますます高まっております。高島藤樹会の更なる発展を願って皆様への感謝のことばと致します。